

やすらぎ通信

生活の中の
仏教語

『供養のこころ-遺影の役割を考える-』



ほっと通信編集委員 伏見 英俊

ひと口に先祖と言っても、記憶のある先祖もあれば記憶のない先祖もあることでしょうが、先祖供養の大切さは多くの方が実感していることと思います。仏壇はお墓と同様に、亡き人に話かけることのできる神聖な空間と考えることができます。その仏壇での先祖供養と切っても切れないものに、位牌と遺影があります。



東日本大震災にともなう福島第一原発の事故により、今日に至るまで多くの方々が避難生活を送っておられます。原発事故後、立ち入りが禁止されていた警戒区域の住民に、一時帰宅が認められた時の話になりますが、一時帰宅した多くの方が位牌と遺影を避難先に持ち帰ったそうです。信仰の厚さを物語るエピソードであると同時に、日本人にとっては、祖先崇拜が日々の生活の根底にあることを物語る行動であったと言えましょう。

位牌は、戒名が記されているため、火事になつたら真っ先に持ち出さなければならぬと言われるほど大切にされ、死者供養に必要不可欠のものと考えられてきました。遺影もまた亡くなつた人を思い起こすため、なくてはならないものでしょう。田舎では今日でも仏間に代々の先祖の遺影がかけられていることは珍しくありません。それらの遺影には写真もあれば肖像画もあります。

写真を用いた遺影の伝統は、日本に写真技術が伝来してからのもので、たかだか150年程の歴史しかなく、近代以降の産物と言って過言ではありません。しかしながら今日では、亡くなつた人を思い起こすためには、極めて重要な役割を担っていると言えるでしょう。記録の残つている限りでは、福沢諭吉の葬儀で、遺影として肖像写真が使われた例が最も古いのではないかとされ、現在のように、普及するのは明治末期から大正期にかけてのことであろうと考えられています。

「亡き人を思い浮かべる」ことは、供養の際に最も大切なことで、亡き人が人間としてこの世に生きたことを再確認することにもつながります。そう考えると、遺影は単なる写真ではなく、われわれの心の中にある亡き人の記憶を思い起こすものとして遺影の重要性がご理解いただけることでしょう。

(白石市 真言宗智山派 常福院住職、北海道東北臨床宗教師会会員)

「やすらぎ友の会」

新規会員募集キャンペーン

平成30年11月より平成31年1月までの期間

やすらぎ定期積金・入会金にて新規入会された方へ

供物割引券進呈いたします（1,500円）



①やすらぎ定期積金

掛金は、毎月3,000円以上（1,000円単位）定期積金期間5年指定口座振替

※やすらぎ定期積金の申込は最寄りの支店金融窓口へ（通帳と通帳印、身分証明証が必要となります）

②入会金5,000円納入（脱会時には返金しません）



お得な「やすらぎ友の会員」

1. 年会費等は一切不要
2. 何回でも割引が受けられます
3. 会員及び同居家族の方も特典が受けられます

やすらぎ会員の特典

- ① 全利用（葬儀・会葬礼品・法事一式）……精算代金より3万円引き
- ② 祭壇・会葬礼品・供物（茶盛・花環・生花は除きます）……通常価格より10%引き
- ③ 引出物……通常価格より20%引き
- ④ 墓石・仏壇……会員特別価格にて提供
(位牌・法名彫刻は除きます)

ご利用時にやすらぎ友の会
会員カードを提示ください。



病院へのお迎え24時間受付・ご葬儀・ご法要・生花・花環

JAみやぎ登米 「JA葬祭」

TEL:0220-22-1611

今後、定期的（年4回）に発刊させていただきますので、よろしくお願ひいたします。